

我孫子市消費者の会

# お知らせ

2015年1月21日 第40期 No10-462

事務局 〒270-1143 我孫子市天王台3-7-1-201 和田三千代方 TEL 04-7183-1434

<http://www.abikoshi-syohisyanokai.net/wp/>

新しい年が始まりました。皆様、お元気で  
お迎えでしょうか。

今年1年のご健康とご活躍を祈ります！

## 第39回 我孫子市消費生活展

子どもたちに安全・安心を！

～見て・知って・確かめて～

日時：2月14日（土）15日（日）

10時30分～16時30分

会場：あびこ市民プラザ

（あびこショッピングプラザ内 3F）

11団体と市が月1回の実行委員会を開き、1年かけて検討してきました。今回のテーマは子どもですが、生活全般のことで、参考になることが多々あると思います。ミニコンサートも開かれます。是非ご参加ください。チラシ参照。

また、この両日、同会場で、クリーンセンターが小型家電（携帯電話等）の回収ボックスを会場内に設置します。家にある方はご持参ください。希少金属等が含まれているので貴重なものです。ご協力を！

## 2月定例会

2月2日（月）13:30～16:30

我孫子南近隣センター 8F調理室

定例勉強会 40周年を過ぎた消費者の会

## 3月定例会

3月2日（月）13:30～16:30

我孫子南近隣センター 8F調理室

定例勉強会 県民提案事業の報告他

## 映画「日本と原発」

日時：3月8日（日）2回上映 協力券500円

① 14:30～ ② 18:00～

（開場は30分前）

会場：あびこ市民プラザ

（あびこショッピングプラザ内 3F）

## 原発推進で良いのか？

昨年末の突然の衆議院議員選挙で、現政権は信任を得たとして、施策を一方向的に進めているような気がします。

我孫子市消費者の会は、3.11の後、定例会で話し合い、「原発のない社会を作りたい」という方針を決めました。ホットスポットと言われた放射能汚染にも、市の対策を講じてもらうよう働きかけました。

大江健三郎さんたちの作られた「さようなら原発1000万人署名」の会の署名活動や、集会・デモにも、皆さんに呼びかけて参加してきました。福島原発事故についても、そして自然エネルギーの推進も学習会を開き本質を知ろうと努力してきました。

まもなく4年経ちますが、まるで福島事故がなかったかのような原発推進・原発輸出願望の政権に大きな不安がつのります。

我孫子市消費者の会のテーマは「我孫子の暮らしを考えよう～次の世代のために」です。本当に次の世代、その次の世代の安全を考えて、どうしたら良いのかといつも話し合い、行動してきました。

そこで、今回は「さようなら原発あびこ」が

企画する映画会にも協力することにしました。弁護士が作った、原発の本質が本当に良くわかる映画です。チラシを配布しますので、是非、ご家族でご覧ください。協力券は和田にお申込みを。

## 自然エネルギーを増やしたい

福島事故の後、社会は原発でなく自然エネルギーを出来る限り増やしたいという意見が満ちていました。東京電力もその声に押され、特に太陽光発電をすれば、高く買い取ると言いました。各家庭や事業者の太陽光発電は、自然エネルギーを使いたいと思う人たちの力で増えました。

ところが今になって、東京電力は「高く買い取らない」という方針を出しました。言ってみれば、2階へ上げて、はしごをはずしたのです。

私たちは、自然エネルギーを増やしたい！新聞で見つけた関連記事を3枚、裏面にコピーしました。千葉大の倉坂秀史教授は、県のレジ袋の会議で一緒でした。詳しいお話を聞いてみたいと思っています。

## 超高齢社会は不安だらけ？

国の来年度予算で、高齢者施策を見ていると、昨年4月から3%増えた消費税はどこへ？と疑問符をつけざるを得ません。「消費税はすべて福祉に使います」と言われていますが、国民の反対を受けて延期された2%の消費税の分が財源不足だという理由で、年金・介護分野での低所得の高齢者が特にしわ寄せを受けた形になりました。

今の日本は格差が激しくなる一方ですが、低所得の高齢者が家で暮らせなくなったとき入る施設は作られていません。10万～15万円位で入れるのは無認可の住宅改造の施設です。NPOの経営者は「止めろと言うのなら止めます。でも、この人たちを誰が世話するのですか」と。

また、家族の一人が施設入居を迫られる状態になった時、たとえ厚生年金受給者でも、残っ

た一人は、家で暮らす費用がなくなります。

厚生年金の遺族年金受給者も、そのお金だけで入れる施設はほとんどありません。

これが今の日本の現実です。国は「出来るだけ家で暮らせ」と言いますが、住宅事情（階段が上れないなど）もあり、施設入居が必要な人もいるのです。

少子化対策も必要ですが、今の社会を築くに力を出した高齢者にももっと目を向けてくれないと、安心な社会とはとても言えませんね。

## 我孫子の県民提案事業もほぼ終了

「認知症でも安心して暮らせる地域を作るためのモデル事業」は、昨年11月の3回の講演会の後、リーフレットとのぼり旗の設置を各方面にお願いしてきました。のぼり旗は立てることに条件があったりして、まだ80本の設置を終えていませんが、3万枚作ったリーフレットは皆様のご協力で残りがわずかになりました。

このリーフレットは認知症かな？と思ったときの相談先、家族が気をつけること、認知症チェックリスト等が記載されているのでとても好評です。商業観光課から紹介された商工会の会長さんを訪ねても「こんなものが欲しかった」「市ぐるみで考えることだね」などの嬉しい反応がありました。80個のスタンドケースが足りなくなり、買い足しています。

のぼり旗が立っていることを大変評価して下さった方もあり、消費生活センターにお褒めのメールが届いたこともありました。

超高齢社会は誰でもが認知症になる時代とも言われています。今後も私たちは出来ることを続けていきましょう。

～ ～ ～ ～ ～ ～ ～

今年のインフルエンザワクチンは子どもと高齢者は1割しか効かないとか。

皆様どうぞ大切に！！

(経験者より・・・)

